



平成 20 年 4 月 3 日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会 文化課
歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
〒270-1166
我孫子市我孫子 1684 番地
TEL:04-7185-1583 (直通)
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘だより

鶴見俊輔講演会が開催されました！



3月15日(土)
午後2時30分から午後4時30分まで、ケヤキプラザふれあいホールにて、「我孫子で柳宗悦を語る」と題して鶴見俊輔氏の講演会が開催されました。鶴見俊輔先生の独特の語り口で、

またユーモアを交えながらのエピソード披露と、その中に光る鶴見先生の視点の鋭さに楽しくまた感嘆した2時間でした。伝わるかどうかはなはだ疑問ですが、内容のいくつかをご紹介します。

最初は我孫子のお話から。鶴見先生が我孫子駅に降り立って最初に目にされたのは、武者小路邸で撮影された白樺派がそろっている例の写真だったそうです。これを見たとき、まだ白樺派も有名になる前でありそうした時期にこの地で文筆活動をし、またその姿を捉える撮影チャンスを得た我孫子という地の品格を感じたとのことをお言葉をいただきました。以下は引用です。

~~~~~

今日のテーマは、明治から離れた柳宗悦です。明治の言葉遣いとらわれなかった柳宗悦。「〇〇はもう古い！」。〇〇に入る言葉は、なんでもよいのです。たとえば、「江戸時代はもう古い！」。「湯川秀樹はもう古い！」。こうした考えは明治以前にはなかったものです。

そのころ、西洋の技術を日本へ導入する際、最新技術とは言いながらも西洋まで船で行ってまた戻ってくる最新技術には6ヶ月も7ヶ月もタ

イムラグがあったのです。その間、その最新技術は、最新のまま時間の流れの中に場所を確保していたわけです。しかし、いまはどうです？一瞬にして最新の情報を手に入れることができる。そして、それは一瞬後にはすでに古びているのです。古びるという考え方が、その存在をどう有らしめているかということが、問題です。柳の生涯の仕事はなんだったかという、それは“古びることへの抵抗”でありました。生きている間だけでなく、亡くなってからもなお成し遂げ続けていると

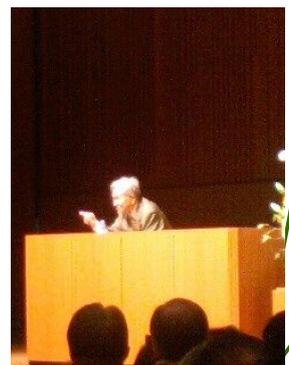


言えるかもしれません。

そのような柳の考えは白樺派という仲間たちとのかかわりの中で生まれ

ていったものでしたが、白樺派という若者たちの運動がなぜ学習院という土壌で出てきたのか……。学習院は、皇族の通う学校として存在し、名家の子弟が集まっていました。軍が力を持ち、日露戦争後はさらに軍高官の子弟が学校でも大きな顔をするような時代となったとき、そうではない学生たちの間では個人主義が台頭する環境が生まれていたのです。そのひとつの表れが“白樺”といえるでしょう。そのような時代背景の中で若き柳は「軍人が勇気ある人ではない。1人で考え、1人で行動する勇気のある人、それが真に勇の者である。」と言うのです。

そんな柳が我孫子へやってきます。豪傑の兼子夫人と神経質な柳。そして周りには志賀も武者もリーチも。そして徹夜して議論しあう！宗教哲学を追求した柳であっ



たが、それを体現していたのは実は兼子夫人であったようです。子どもたち3人ともが夫人支持で、家族内での柳の地位はどうも……(笑)。

~~~~~

ユーモアを交えて柳の考えや生き方を物語るエピソードを披露してくださいました。楽しいひとときで、2時間があっという間でした。

せっかくお越しいただいたのに、会場が満席で立ち見となってしまった方、または入れなかった方々には心からお詫びを申し上げます。

杉村楚人冠邸についてご紹介しました。

平成19年度に文化課では、杉村楚人冠邸の建物調査を行いました。資料に沿って、楚人冠邸の邸宅と庭内のご紹介をしました。貴重なライト式住宅と茶室や、近所では椿屋敷ともいわれる椿の多い庭の様子など、このあたりのオアシス、この先の未来へずっと残していきたい貴重な場所です。



新しい仲間が増えました！

以前、お庭の植物の講師としてお招きした佐久間さんと、貴重な女性メンバーである大井さんが、新たに私たちの仲間に加わってくださることとなりました。心強いかぎりです。どうぞよろしくお願ひいたします。

ご連絡・意見交換など

●旧村川別荘年間イベントカレンダー

今後の集客力アップまたは維持にむけて、積極的に企画を展開したいと考えています。ガイドさんやまたはお知り合いの方にもご紹介ください。昨年の襷絵展のような持込企画、大歓迎ですのでご相談ください。

●来荘者アンケートについて

単票式で作成しました。4月よりこれで運用してみたいと思います。二つ穴をあけていますので、記入されたものは用意してあるファイルに綴じて棚へしまってください。よろしくお願ひいたします。

●景観散歩

吉澤会長よりチラシを配布しご案内がありました。今回は川越へ。どうぞお誘い合わせの上、ご参加ください。締め切りは4月8日です。

●矢野さんから資料提供

矢野さんからご紹介していただきました。税理士の会で桜友会という集まりがあります。その会報に投稿して掲載されたものです。税金の使い方として、この旧村川別荘というのは非常によい使われ方をしているという見方をご紹介しました。また、比較して個人資産の使われ方として、白樺文学館も非常によいということを書いてあります。

●荒井さんから資料提供

荒井さんから新聞記事切抜きの提供がありました。江戸時代の時間の捉え方を通して古の生活を知ることができるかと思ひます。

●邸園構想について

後藤医院の見学や、神奈川県を取り組みついて資料に沿って紹介させていただきました。今後、我孫子でもこういったことを参考例としながら、刺激を受けてやっていきたいと考えています。

●観桜会、残念でした(雨天中止)

楽しみにしていた桜、花の時期としてはこれ以上ない好機となりましたが、当日はあいにくの雨でした。来年に期待をしたいと思ひます。

ちなみに我孫子ゴルフ倶楽部の監査役や特別会員であった杉村楚人冠のゴルフの腕前はどうかだったのでしょか？我孫子ゴルフ倶楽部は(そのころは我孫子カンツリー倶楽部)、パーが72のコースですが、杉村楚人冠の晩年のころにあたるハンディキャップ表が記念誌に掲載されています。楚人冠は昭和12年には23、昭和15年には30となっています……。ちなみに規定ではハンディキャップが36までとされています。

また、我らが村川堅太郎先生も通常の会員ではありませんでしたが、週間会員としてお名前が見えます。ハンディは27。ゴルフに疎い編集Kにとってはこれがどういうことなのかよくわかりませんが、こうしてお名前をみることでできるとより先生方も身近に感じられてうれしい限りです。



次回は……

平成20年5月1日(木)午前9時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います。古八建具さんに建具のお話をお聞きする予定です。ぜひ、ご出席ください(^ ^) /

旧村川別荘だより

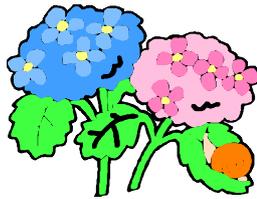


月例会が開催されました！

5月1日(木)に5月の月例会が開催されました。シフトの確認と建具のお話、そして意見交換がなされました。以下に報告します。

●6月のシフトについて

シフト表の確認を行いました。
→確認されました。



●7月のシフト調整調査票について

5月25日(日)までにいつものポストへご投函ください。ファックスやメールでも結構です。とさせていただきますが、今回、郵送が遅くなったので、29日(木)までに締め切りを延ばさせていただきます。組んでくださる西村さん、織田さんにも今回はいつもより遅くしてぎりぎりに組んでいただくようになり、ご迷惑をおかけし、申し訳ありません(@_@)

建具のお話・・・

今回は、ガイドの青木さんの御紹介で、建具屋さんの「古八(ふるはち)建具」の深山清さんをお招きし、職人さんならではの話を伺いました。

深山さんは4月のあるとき、子の神さんにいらっしゃったときに、ふらりと旧村川別荘を御覧になり、そこにいらした青木さんといろいろおしゃべりをするうちに、ぜひこの建具の話を皆さんにも聞いてほしい！という青木さんの願いから、深山さんに今日きていただけたということです。

深山さんは古戸で建具屋さんを営んでいます。子の神さんにも建具のお仕事の関係でいらっしゃっていたとか。お父様は屋根屋さん、おじ様、お兄様は同じ建具屋さんといえますから、建築ご一家という風でいらっしゃいます。

深山さんは、鹿沼で15年間修業した後、職人として独り立ちされたとのこと。鹿沼は建具を作るところとして知られるまちのようですが、以下に鹿沼

市の紹介の文章を市のホームページから抜粋して御紹介します。

「(前略) 戦国時代には、壬生氏が本拠地を鹿沼に移しこの地を支配していましたが、豊臣秀吉の関東侵攻の際、小田原城落城とともに壬生氏は滅亡し、鹿沼城は廃城となりました。

近世に入ると、日光に東照宮が造営されたことにより、鹿沼地域は日光西街道・例幣使街道の宿駅として生まれ変わり、町は商品流通の中心地として賑わいました。

この頃、彫刻屋台が数多くつくられ、町人文化の繁栄がみられました。栗野地域は、足尾銅山の開設にともない、生産生活物資輸送の中継地として賑わいました。

近代に入ると、鹿沼地域では木工業が盛んになり、日光線の開通や関東大震災、戦災復興などによる需要の増大に応じて生産を伸ばし、「木工のまち」としての地位を確立しました。(後略)」

このようなまちで修行をされたという深山さん、建具を扱う手はしなやかで、見る目も私たちとはやはり違います。お話のすべてを掲載することはできませんが、印象に残ったことをいくつか御紹介します。
～以下は深山さんの職人口調に頭の中で変換してお読みください～



「建具ってそもそも何のことですか？」

「建具というのは、建物の中で動く部分だね。扉とかまどとかふすまとか、みんな空けたり閉めたりする動くところ。そういうところは建具だって考えるとわかりやすい。敷居とかの枠は大工さんの仕事。中に入れる扉やガラス戸、障子、ふすま、らんまとかね、そういうのが建具。」

なるほど。動くところとはわかりやすい表現です。はめ殺しやかかけ障子は動かん！というがんこおやし様は、我らがガイドさんの中にはいらっしやらないはず。一応意味を引いてみると「建具：ドア、窓、障子、ふすまなど開口部に取り付けるものの総称。そのほとんどが、開閉の機能をもっている。室内外を隔てるもの（玄関ドア、デッキへの掃き出し窓など）と、部屋同士を隔てるもの（個室のドアなど）に大別される。人の行き来、通風、採光、間仕切り、防犯、意匠など多くの役割をもっている。」

「この部材は何ですか？」これは新館の入り口の、以前に梅津さんが年輪を数えてくださったもの。

「これは・・・杉だねえ。杉の一枚板。たいしたもんだね。建物に比べてだいぶ新しいみたいだけど。ほら枠組みが他に比べて全然新しい。年輪が230あまりあったとのことだが、樹の板は通常「あかみ」と呼んでる中心の部分を使う。外側の「しらた」と呼ばれる白い部分は使わないから、それを考えれば300年近い樹から切り出されたんじゃない？」これにも一同へ〜っと感心。とこんな具合なんです、紙面を無駄に使っている気もしてきましたので、以下はちょっと味気ないですが、箇条書きでご披露します。

・(新館) 部屋と部屋との間の扉は凝ったしゃくりだしのあるけやきの扉であるが、手がかかっている。これは現在ではコンピューター制御の機械で削ったりできるので、そう難しくもないが、当時のすべてが手作業の時代に、「しゃくりがんな」や「きわがんな」という道具を使ってひとつひとつ手で掘っていくものである。貼り付けのにせものででないことがわかるのは、木目がきちんと連続しているところからも読み取ることができる。また、外枠のラワン材も外材なので、今では珍しくないが当時には手に入りにくいわりと高価なものであったと思われる。しゃくりだしの部分にも額をつけて入れ込んであり、これも扉としてはワンランクアップの部分である。



・(新館) 木目としては、たけのこといわれる木目が一番価値は低い。特に粗いたけのこは安い部材である。模様が複雑になるほど、高価で「きじもく」とか「たまもく」

等といわれるものがある。

・(新館) 玄関から入った部屋とリビングとの間のガラス障子は、ひのきのびしゅうというよい部材で、組子に面取りがなされていて(角面(かくめん))、なおかつ、さんの内側に組子の部分を額縁で飾り入れ込んである「付け子」という手法がとられている。これも手間がかかっている、それだけ高価であるといえる。面のとられていない組子を素組(すぐみ)という。

・(新館) リビングの窓にはまっているガラス障子は、銀杏面(ぎんなんめん)といわれる面取りが施されているが、付け子ではなく、内側のものと異なっている。



・(新館) 寝室の西側の窓は、すどうづきで面取りもされていない。南側のまどはきちんと面取りがなされたものである。組まれている部分のかどは、のみでついて組む「こしかた」という技術である。

・(母屋) 和室にある付け書院の組子の障子は杉で、組子としてはそれほど高い技術を要するものではない。しかし、接着剤などで付けてあるのではなく、ほぞで組んである本式のもの。ひ



しがたに霞の入っているのもその分の手間は必要だが、特別に高価値というところまではいかない。扉の閉じ方は内拝み。

・(母屋) 和室の床の間脇の地袋と天袋は、取っ手の金具も異なり、扉の合わせ目に付ける定規も違う(天袋の定規は大きすぎてバランスがおかしい。)ことから、作られた時代も違い、作った人も違うと考えられる。床柱は、棕櫚の木。

・釘隠しのつるは、「ふりむきづる」や「とびづる」と形が違うけれども、同じ部屋ので鶴で統一しているので、ありだと思ふ。規格品で当時使われていたものであろう。

→建具に対する職人さんの愛情が強く感じられ、日ごろ何気なく見ている扉ひとつふすま一枚も見る目が変わった、そんなひとときでした。

次回は・・・

平成20年6月1日(日)午前9時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います。ぜひ、ご出席ください(^ ^) /



平成 20 年 6 月 13 日発行
 旧村川別荘市民ガイド事務局
 我孫子市教育委員会 文化課
 歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
 〒270-1166
 我孫子市我孫子 1684 番地
 TEL:04-7185-1583 (直通)
 E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘だより

“水無月”の月例会が開催されました！

6月1日(日)に6月の月例会が開催されました。荒井さんが水無月ということで陰暦の月名を書いてきてくださいました。そのときに、水無月というのは、旧暦6月で、新暦では7月あたりになることから、日の照りかえる暑さ厳しき時期で水無し月なんですよね・・・というお話をいたしました。言っただけのもの、語源好きの編集Kとしてはちょっと気になっていて、よくよく調べてみると若干趣が違いましたので、ここで他の説もご紹介したいと思います。

新暦で言うと6月下旬から8月上旬あたりになるようです。文字通り、梅雨が明けて水が涸れてなくなる月であると解釈されることが多いようですが、逆に田植が終わって田んぼに水を張る必要のある月「水張月(みづはりづき)」「水月(みなづき)」であるとする説も有力(これにはなんとなく納得)。他に、田植という大仕事を仕終えた月「皆仕尽(みなしづき)」であるとする説(これはちょっとこじつけのような・・・)、水無月の「無」は「の」という意味の連体助詞「な」であり「水の月」であるとする説も(なんとなく好みでない解釈(←自分勝手)。)。梅雨時の新暦6月の異称として用いられるようになってからは、「梅雨で天の水がなくなる月」「田植で水が必要になる月」といった解釈も行われるようになった(言葉の意味は時代とともに変わります。)とのこと。いずれにしても、時代に合わせたいつごろの解釈がどれなのかというまで正確に調べてみないと、一説ぶつのは材料不足です。どなたかご意見、ご持論お持ちでしたらぜひお寄せください。



ちなみに6月の異名としては、かぜまちづき(風待月)、とこなつづき(常夏月)、なるかみづき(鳴雷月)、すずくれづき(涼暮月)、まつかぜづき(松風月)、いすずくれづき(弥涼暮月)、たなしづ

き(田無月)、せみのはつき(蟬羽月)とやまほどあって、水無月より風待月とか涼暮月なんていうとちょっと風流でいい感じ・・・さらに常夏月なんて平安チックだし、鳴雷月なんていうと神話っぽくてまた月のイメージも変わりますね(^ ^)

一閑話休題。だいぶ話がそれてしまいました。ということで、日本語は奥深い・・・と梅雨時らしく、雨に埋もれるように言葉に埋もれてみる日々もこれまたよいのではと思う今日この頃です。なんだか編集後記のようですが、始まりです。



年輪の話・・・

稲田さんから、年輪についてのお話がありました。旧村川別荘便りで、新館入り口の杉板を引き合いに出して、年輪を数えて何百年という樹木であることがわかる・・・などと書きましたが、訂正をさせていただきたいと思います。稲田さんのお話を聞いて、なるほどと思われた方も多いと思いますが、単純に木の模様のすじを数えればよいというものではなく、切り出された場所によって必ずしも筋の数=年輪ということではないためそのことを知った上でガイドに役立ててほしいということです。

以下、稲田さんのお話と調べたことをご紹介します。

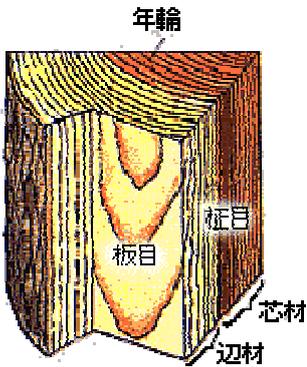
木は、帽子を積み重ねるように外側に大きく、上の方に伸びるように成長します。木を輪切りにしてみると、少し色の濃い輪になったすじが何本も見えます。この輪は、毎年1本ずつできるので「年輪」といい、つまり木の年齢ということになります。

木は、春から夏にかけてよく成長し、この期間に作られた細胞は大きくて膜が薄いので、軟らかく色も薄く見えます。一方、夏から秋にかけて作られた細胞



(インターネットより)

は、小さくて膜の厚い細胞ができるので、堅くて色も濃く見えます。この毎年の成長の繰り返しがすじを作り、年輪として切り株などの切り口に見えるものとなるということです。



(インターネットより)

木の年輪の中心部を心材（赤身-あかみ）といい外側を辺材（白太-しらた）といいます。辺材は栄養物を蓄える働きをする柔細胞が活動しているため水分と養分が多く（カビの原因）、心材は細胞が既に活動を終え固定化しています。そのため心材は辺材に比べて腐りにくく虫がつきにくくなります。

木は縦に切ったり、横に切ったり、斜めに切ると、それぞれ違う模様が現れます。この模様を「木目（もくめ）」といいます。木目は、波のように見えたり、縞模様だったり、たけのこのようだったり、斑点のようだったりといろいろなものに見えます。木目は、丸太の製材のしかたで、波形や山形もようになっている「板目（いため）」と、木目が平行線になっている「柱目（まさめ）」に分けられます。年輪に対して垂直に切りだされたものが柱目、年輪に対して接するように切り出されたものが板目となります。

結局のところ、よっぽどの専門家でない限り板だけを見て年輪を推測するのは非常に難しいということがわかります・・・ちょっとり残念ですね。

書院造の話・・・

書院造は、日本の室町時代中期以降に成立した住宅の様式です。書院造は、床の間（または押板）、違い棚、付書院という座敷飾りを備えたもので、今日の宴席でも、しばしば床の間の位置によって「上座」「下座」などと座席位置が決めることができますが、これは床の間との位置関係が身分序列の確認を促す役割を果たしていたことを示しているといえます。

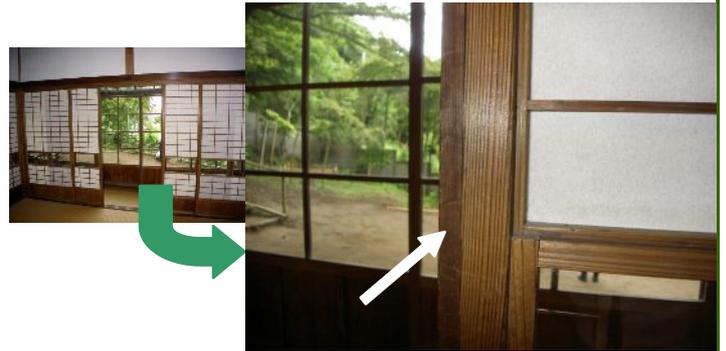
書院はもともと禅僧が書を読むために室内からはり出し、床板を書見のための机とし、前に明かり障子などを設けたもの。押板（床の間の前身）や違い棚は、書画、置物などを飾る場所として造られてきました。室町時代後期には、寺院の書院や武家住宅に押板や棚、書院を備え

るものが造られるようになり、次第に書院造の形式が整えられていきました。現代の和風建築も、大きな意味でこの書院造の影響を受けているといえます。

これまたお詫びと訂正なのですが、前号に書きました母屋の和室の書院については、「付け書院」（室内から張り出している形状のもの）ではなく、廊下側への張り出しのない「平書院」です。たびたび申し訳ありませんでしたm(_ _)m

村川の七不思議？

前号に書き漏らしてしまったのですが、村川の七不思議のひとつが深山さんから指摘されました。和室から縁側へ出るところの紙障子、この建具はもともとこの場所にあわせて作られたものではないということです。なぜかという・・・写真をご覧ください。このように付け框があります。合わない寸法をこのようにして調節して、はめてあるということがわかります。



次回は・・・

平成20年7月1日（日）午前9時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います。文化財審議委員の河東義之先生をお招きし、文化財の建物についてのお話をいただく予定です。ぜひ、ご出席ください（^^）/



(インターネットより)

旧村川別荘だより



平成 20 年 7 月 15 日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会 文化課
歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
〒270-1166
我孫子市我孫子 1684 番地
TEL:04-7185-1583 (直通)
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

7月の月例会が開催されました！

7月1日(日)に7月の月例会が開催され、シフト表の確認を行いました。みなさまのご協力により、了承されました。いつもありがとうございます。また、シフトを組んでくださっている織田さん、西村さんのご努力にも感謝です(^^)

文化財審議委員 河東 義之先生のお話

【河東先生のご経歴】

この3月まで千葉工業大学の教授をしていたが、定年退職となりました。現在も、週一日は大学院の授業を持っていて教えに行っています。研究分野は、建築、建築の歴史であり、恩師としてはみなさんがよくご存知の NHK の大河ドラマの建築の時代考証として名が出てくる平井聖先生です。

平井先生は武家住宅などが専門であり、その弟子として学びました。しかし、親分とまったく同じ分野の研究をするのでは面白くないので、私自身は、ジョサイア・コンドルの建築を専門に研究しました。

研究以外の部分では、近代建築の保存や、さまざまな国や県による建築物の調査、その後の活用に向けた取り組みなどに関わってきています。

【書院造と数寄屋造】



さて、和風建築の最たるものといえば、書院造です。もともと現在の和風建築の概念は、中世の

武家住宅にその骨格的な構造が出来上がったものと捉えられますが、それを最も発展させて特徴的に完成したものが書院造ですね。特に寛永年間、徳川家光将軍の時代に築かれた二条城二の丸御殿などその書院造の様式として有名な建築が現在も残っています。

この書院造を良くあらわすキーワードとしては、「格式の強調」、「座敷飾りの定型化」、「絢爛豪華な意匠」が挙げられます。建築の歴史において、「絢爛豪華」といえばひとところには桃山時代を指したものだ、これは誤りでした。戦後の調査でそれまで桃山時代に建造されたと考えられていたものは、寛永の時代に立て直されていたものであるということが判明しました。桃山時代のものは「華麗」とは言えるかと思いますが、やはりその栄華の極みは寛永の建て替え後のものであったのです。

しかし、それらの建物も、明暦の大火(1657年)に遭って江戸の大名屋敷や本丸天守閣に至るまで焼失するという憂き目にあいます。俗に言うふりそで火事ですね。

このとき先生がおっしゃった「ふりそで」という言葉、お聞き逃しなかったですか？日本史に暗い(それで文化課にいるとは何事とお叱りを受けそうですが…)者としては、「はて？振袖が火事に何の関係があるのだろうか？」と小首をかしげたのですが、次のような伝承があるものでした。

この火事は、江戸の三大火事にも称される規模で、外堀以外のほとんどの市街地が焼け、死者も10万人を数えるという説まである大火事でした。この火事は本妙寺という寺の小姓に恋をした娘が着るはずであった振袖を残して急死し、その振袖を譲り受けた娘がまた夭折、さらにその振袖をもらった娘がまた亡くなるという凶事が相次いだため、供養のために振袖を焼いたところ、その振袖が折

からの強風に煽られて高く舞い上がり、本堂の屋根に落ちて出火、その火が燃え広がり大火となったというのです。

ちなみに、このとき江戸では80日以上も雨の降っていない冬のさなかで、まちが乾燥しきっていた状態では、ひとたまりもなかったでしょう。しかし、この大火後に江戸幕府ではこれを機にと、区画整理や神社仏閣の移転、屋根の防火対策、広小路・火除土手の設置など大規模な都市改造が行われたということです。関東大震災も同様、歴史は繰り返す、ということでしょうか。

火災後の幕府の動きから、うがった見方があって、「当時の江戸では急速な市街地の広がりによって都市機能としては限界に達していた。これを打破するためには、これまでの都市計画を一新し、まちを作り直す必要が急を迫られていた。しかし、実行するには住民の説得や所狭しと立ち並ぶ建物や立ち退きのための補償費の問題などが大きく手をつかねていたため、放火によってそうした問題を一息に消滅させてしまおうと時の幕府が考えた」というのです。

まさか、そこまで大胆ではなかつたらうと小心者としては考えますが、説としては非常に興味深いもので、いつの時代も人間のくらし、営み、考え、欲などそうそう変わるものではないのだろうか。なあなどと考えさせられました。



←定火消し(明暦の大火を機に設けられた幕府直轄の消防組織)

かなり脱線。またもとに戻って・・・。

この明暦の大火後、屋敷などがなくなってしまった大名たちは非常に困ってしまいます。家光の政策というのは、できる限り大名の懐具合を潤沢にはしないようにと展開してきていますから(参勤交代然り、さまざまな城の建築への資材提供の義務然り)、大名たちには絢爛豪華な書院造の正規な形での屋敷の再建は、なかなかすぐできるものではなかったのです。

そこで、台頭したのが数寄屋造りです。これだと書院造ほど格調高く正式なものとは異なるけれども、それなりのレベルの建物として社会的にも価値を認められてきたものであるし、書院造と

は違った趣での価値があるといえるものであったため、大名たちは、この建築様式を採用する流



れができていくというわけです。

←桂離宮(三名棚と言われる新御殿の桂棚)

数寄屋(草案風茶室)は、千利休によって完成された建築様式です。ここでひとつポイントなのは、この様式を作り上げた千利休は堺の出身だったということです。江戸時代、堺の商人といえば、将軍も大名もたてつくことはできない独自の自治区域でありました。戦乱となれば、鉄砲を作って鉄砲を売る境の商人たちにしてみれば、秀吉に勝たせてやったのは自分たちだ、家康に勝たせてやったのは自分たちだ、幕府を誕生させてやったのは自分たちがいたからこそだという気概を持っていたのです。そうした商人たちを当然大名も将軍まで軽んじるわけにはいかない、そういう図式がありました。これは、数寄屋造りが上流階級の中でも市民権を得ていったひとつの大いなる要因ともいえます。

もともと、数寄屋造りというのは、身分の別なく茶の湯を愉しもうという気風から着想されており、極力、格式ばらないよう虚飾を排除する考えであり、言い換えれば武家に対抗するための文化といえます。そして、一方で非常に手間をかけ、凝ったつくりをすることによりお金をかけたものともいえ、しかし、書院のこれ見よがしな高級な材を用いたり細かな彫刻を施したり金箔を貼り付けたりというわかりやすいものではなく、いかに見えないところにお金をかけるかという、ひとつひねったこだわりをもつ建築様式であります。旧村川別荘はやはりこの数寄屋的な視点で建てられたのだろうと推測される点が多々見受けられます。

【書院造】

まず、基本となってくる書院造について、写真で実例を見ながら



二条城

特徴的なつくりをみていきます。基本の要素が、上段の床の間、帳台構、違い棚、付け書院という4つです。

このほかに桃山時代から江戸時代に向かって次第に定型化されていく書院造には、竿縁天井、白壁に障壁画、彫刻欄間などがあります。また、基本的に見えている柱はヒノキの柱目の角柱であり、丸柱などを使えば書院造としては格落ちで書院造とはいえない! というくらいのものでありました。また、塗り壁は基本的になく、貼り付け壁であり、和紙を張り付け、その上に金箔を張って、さらに狩野派が絵を描くという、豪華で手の込んだものでした。二条城の大広間(1626年)などが最も完成された書院といえます。障壁画も天井との接合部分までの壁最大限を貼り付け壁としてキャンパスにし、狩野派が描いています。

【数奇屋造】

数奇屋造は、千利休によって完成された草案風茶室のつくり。特徴としては、非常に細いつくばい、小間の茶室(もっともよいのは2畳だとのことです。利休はふたりだけの空間、身分も何も関係ない空間を理想としていたということです。)、小さな空間を広く見せるための小さなだけの低いにじり口、深いひさし、などが挙げられました。また、柱なども一見そのへんに生えている細木を採用しますが、これも利休としては何十本も集めた木の中から、太さ、曲がり具合、色、節の様子など非常な吟味を重ねてこの1本を選び出し後はすべて捨ててしまうというこだわり、こういう贅沢、こういう手間をかけたつくりだということです。これを見た人は、なんだ、こんな柱どこにでもある・・・などと思うけれど、それを横目で見ると利休は、心中ではにやりとする、これが数奇屋造の醍醐味とでもいうところでしょうか。

柱は基本的に丸柱でヒノキは用いず、杉などを使います。丸みを帯びた木の皮を残した面皮柱も数奇屋の特徴。白木は使わず、わざとべんがらなどで着色し、古びて見せようとする。壁は、白の塗り壁、窓は下地窓などが数奇屋の意匠をよくあらわしており、壁の下地を塗り残して格子状の下地をデザインとして見せるやりかたです。また、長押は省略されることが多く、それが部屋全体を

すっきりと軽快に演出することを狙っています。また、引き手や釘隠しなどには斬新で多様なデザインを用い、定型化を打破するもので、南蛮渡り



の材や斬新なデザイン銅版などを使っている例もあります。

←金沢城
(成巽閣)

ここでまた、むずむず解消のために調べてみました。現代では“数奇屋造”というと、すっきりと軽快にというよりも、逆にとても洒落た凝った造りの建造物というイメージが、特に都市計画の分野などではそういう捉えをしていますが、実際はどういう意味だったのだろうか? 本当は「数稀(すき)」で、数少ないようなものって言う意味だったんじゃないだろうか? なんてつらつら考えながらひいてみたら・・・何のことはなく「好き」の当て字で、「風流の道、特に茶の湯などを好むこと」だということ。「数奇屋」は「好き屋」で、自分の好みどおりに作り上げた家屋という意味なんですね。う～ん。なんとなく拍子抜けです。でも、自由なデザインであればあるほど、また、格式・様式を取り除いていくことによりシンプルかつ洗練という数奇屋の美学を究めていく、そういう数奇屋造は造り手の心を表すもの、外側ではなく内面を磨き、鍛錬をするという茶人の精神性を表すものとして、きっと確かにその名の通りなのですね。

【近代和風建物】

「近代和風建築」とはなんぞや。これについては、いまのところ以下に記述したような要素がおおむねの定義かと思えます。

- ・近代(明治以降、戦前まで)に建築された
 - ・伝統的様式や技法で建てられた木造建造物
 - ・一部洋風の様式や技法が用いられているが主として伝統的様式や技法によって建てられた建築物
- 全国的にこれらの調査が実施されました。そのときに含めた建物の類型というのは次のようなものです。

a) 洋式建築

- b) 洋風建築
- c) 近代化遺産
- d) 近代和風建築

これらの事例を見ていくと、やはり自由さこそが近代の特徴であることを実感します。ともすると、本当に恥も外聞もなく瓦葺の唐破風、入母屋造の重厚な社寺風屋根の下に、礼拝堂風な石張りのアーチ型の入り口をつけたようなびっくりするものにもお目にかかたりします(笑)。しかし、なかなか勉強されていてキーストーンなどもはまっています。

千葉県で行われたこの調査の結果として、松戸の戸定邸と堀田邸が国の重要文化財に指定されています。



戸定邸

【旧村川別荘】

この建物ですが、まず新館です。こちらは、これまでの近代和風建物の定義から言ってまさに、鉄筋コンクリートの基礎であり近代技術のもとに立てられた和風建物ということになるかと思えます。ちゃんと鉄筋は入っていますよね? たまに無筋コンクリート、なんていう場合もあります・・・。特徴的なのは、まずは外観。大きな屋根の社寺風外観となっています。これは村川氏の単なる住宅ではなく、寺院風にしてやや荘厳な雰囲気を出したもののか・・・いずれにしても、妻入りの大きな屋根というこだわりの外観です。竹の板張りによる基礎の化粧、戸袋に斜めに貼り付ける洒落っ気も、数奇屋の心配りと見ることができます。



中に入りますと、格天井にシャンデリア、床の寄木模様などは洋館風の造りで

す。外枠との間に若干の段差があるのも、もしかしたら絨毯を敷くことを意



識していたかもしれません。そして、床の間と棚がセットになっているのは書院風の要素、しかし、すべて立式の高さが確保されており、これこそが和洋折衷です。



沼方向にせり出すリビングでは、竿縁天井で真壁、原則角柱、長押は省略せず全体的に重厚なつくりを演出したものと思います。一本だけ面皮柱が使われていますので、あとで見てください。天井板も、より模様のはっきり現れている部分をわざわざ選んで使っているようです。

奥の寝室であった部分については、目を引くのが漆喰の塗り壁です。黒味があった漆喰壁はちょうど昭和初期の流行でもありました。このあたりは斬新なデザインを取り入れているということだと思います。

それから、扇垂木ですね。大屋根の部分。これは禅宗様の建物の造です。ひさは普通の垂木なので、ちょうど比較してみることができます。



母屋については、移築時にどれほどの改造を受けているかが定かでないのも、なかなかはっきりしたことがいえません。柱や長押の材の古び具合を見てもかなり混在している様子があります。江戸時代の建物というよりも、大正10年の建物としてみたほうがよいのではと思います。移築当初(写真)と比べると、RC(鉄筋コンクリート)の基礎が施工されてその上に乗せているので、その分だけ高くなっています。置き床、平書院、棚という書院の要素においては3点までがそろっており、長押も省略をしていないことから、ニュアンスとしては重厚に造ろうとした姿勢がうかがえますが、おそらくもとの建物としては大名などの身分の高い人物が泊まるそのものの部屋ではなかったのであろうと思われます。

全体的には、施主と大工(たぶん非常

に腕がよかったら)ともしかしたら材木屋さんもいっしょになって、好みの建物として造り上げたものと考えられるとのことでした。和洋折衷の建築としては、デザイン的にも技術的にも当時のほしりであったらうとのことでした。

【質疑】

Q. 朝鮮風というように堅固氏はおっしゃってられますが、河東先生から見てそうした要素はありますか？

A. ここが朝鮮特有の造りだということとはちょっとははっきりとこれだというものはないかと思えます。社寺風の屋根や扇垂木はもちろん向こうの様子と共通するかと思いますが、何も朝鮮特有のものではなく、日本の社寺建築と言ったほうが却ってぴったりするようにも思えますしね…。

Q. このリビングで特徴的なものとして張り出しの窓がありますが、この手すりのようなものが内側についているというのは住宅としては珍しいと思いますが、これは・・・？

A. これも社寺建築という高欄です。腰掛けるときにはちょっと注意をしたほうがよいですね。外側から見たときに、本当にこれで支えきれるかという木材の接合によってのみ支えられていて、後はちょっとした鉄の棒があてがわれているだけなので。実際にやや外に向かって下がっていますよ。

質疑も含めて、2時間以上に及ぶ長時間、河東先生には熱弁をふるっていただき、感謝の限りです。ガイドの役立てられる情報満載の月例会でした。先生からは、これからもっと我孫子の建物のことも見ていきたいとのうれしいお言葉もいただきました。



つるしびな

もうお気づきのガイドさんも多いかと思いますが、母屋では七夕に際して七夕の飾りを棚のところにつるし、七夕の風習の説明カードを設置しています。

これは、ガイドの川端さんのお知り合いでつるし雛を作っているらっしゃる鷺見さんが、川端さんからの御紹介によりボランティアで置いてくださっているものです。

つるし雛というと、もともと雛飾りと一緒に飾り付けて華やかにするというもので、着物の生地を使って一つ一ついわれのある品を手縫いし、それらをつるすという風習です(稲取のつるし雛がもとのようです)。出来上がりは、布地の特色が活かされた柔らかな和風のイメージです。

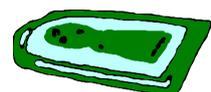
そこから発展して、現在では雛祭りだけでなく、端午の節句や七夕、お正月飾りなどをも同様の手法で作られ、季節感を感じさせる小物として多くの人々に楽しまれているようです。

大正、昭和の懐かしい空間を残す旧村川別荘で、よき日本の風習を呼び起こして発信していく、そんなことができたら・・・。



次回は・・・

平成20年8月1日(金)午前9時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います。次回はひさびさに、考古案内人であるTによる“古墳の世界”へみなさまをお連れしたいと思います。ぜひ、ご出席ください(^ ^) /



旧村川別荘だより



平成 20 年 8 月 12 日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会 文化課
歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
〒270-1166
我孫子市我孫子 1684 番地
TEL:04-7185-1583 (直通)
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

月例会が開催されました！

8月1日(金)に8月の月例会が開催されました。8月及び9月のシフトが確認されました。夏の暑い時期、またレジャーシーズンでもありますが、みなさまの快い御協力をいただき、いつも本当にありがとうございます (^ ^)



我孫子古墳群の発掘調査

—東大考古学研究室の調査 再評価—

「我孫子古墳群」とは我孫子市西部を中心に広がる古墳の総称です。昭和33年から42年まで、東京大学考古学研究室を中心として、若手考古学者多数が参加して発掘調査が行われ、昭和44年に『我孫子古墳群』として報告書が刊行されました。現在でも古墳研究のバイブル的存在としてその名を留めています。



● 調査の経緯

「我孫子古墳群」が発掘される契機となったのは、昭和25年に白山1丁目(嘉納後楽農園跡地に設けられた造成地、ベッドタウンとしての我孫子の始まり)に住まいを設けた東京大学助教授(当時、のち名誉教授)西嶋定生(敬称略、以下同)に負う所が大きいです。西嶋は東洋史の大家ですが、西洋史の村川堅太郎と非常に親しく、公私にわたって交流をもちました。西嶋は戦中戦後の混乱した史学研究の中においても、時流に媚びず、実証的な研究を通じた堅太郎を尊敬していました。西嶋の自宅付近には住宅建設のため壊された古墳(白山古墳群)が数多くあり、我孫子町当局と東京大学考古学研究室に働きかけて発掘調査を実施することとなったのです。



● 調査結果

白山1号墳(通称、富士見坂付近、白山1丁目)では盗掘を逃れた石室から玉類など数多くの副葬品が見つかりました。7世紀中ごろ(大化の改新)と考えられます。

高野山古墳群(高野山)は6基の円墳と3基の前方後円墳が知られますが、このうち前方後円墳の1号墳では4基の石室・石棺が見つっています。多くの埴輪が^{あぶらさく}発掘され、後の研究で印旛村油作古墳群と同じ埴輪職人が作ったことが証明されました。

金塚古墳(根戸)は5世紀後半の小型円墳ですが利根川下流域とのつながりをうかがわせる石枕、大和とのつながりをうかがわせる短甲(鉄製の胴よろい)が出土し、被葬者が各地と政治的に結びつきを持っていたことをうかがわせます。

水神山古墳(高野山)は全長69mの千葉県北西部地区最大の前方後円墳であり、4世紀末頃と考えられます。整った墳形は被葬者が大和政権と直接結びつきをもっていたことをうかがわせます。

● 発掘調査の意義と再評価

「我孫子古墳群」発掘調査は登呂遺跡同様に大学間を越えた調査体制が組まれました。調査参加者は後に日本考古学界を背負う人々になっています。これは西嶋と西嶋恒子夫人の人柄による部分が大いと思われれます。また地域や時代が限定される研究ではなく古墳を通じた総合研究であり、西嶋が『古墳と大和政権』で着想した、古墳を介した大和政権と在地豪族とのつながりを実証する場となりました。また西嶋は我孫子の古墳を正に評価することによって、研究者・行政・市民が連携し、遺跡を「この町に住むすべての人々の誇り高き財産」(1968『我孫子古墳群』あとがきより)にすることができる、と述べています。

遺跡や史跡を財産と考え、研究者・行政・市民の連携の必要性を40年前に看破していた西嶋の提言を重く受け止めたいと思います。

連絡など

- 8月から9月にかけての各種イベント日程のお知らせ(予定)を行いました。お客様も増えたり、各イベントへの準備などいろいろ忙しくもなりますが、ぜひご参加ください。
- 8月8日(金)あびこ発見ウォーク・・・これは我孫子市教育委員会社会教育課主催の夏休み企画です。市内在住の小学5～6年生、6人グループ4チームが、野外での宿泊や食事作り、自然体験などを通して我孫子のすばらしさを発見しながら自主性・協調性を培うことを目的とした企画です。旧村川別荘がルートの一部に入っていて、8日午前11時から12時あたり



りに来荘しました。歩き疲れた大勢の子どもたちに、小沢さんが疲れを癒すガイドをしてくださいました。

- 8月23日(土)竹細工教室・・・今年の竹細工は、昨年のアイデアを活かして流しそうめんです。ふるってご参加を!9:00から13:00までです。
- 9月14日(土)アロハフェスタ・・・あびこにハワイがやってきた!!美しいフラをどうぞ御覧ください。市民グループの方々のおどりに感激、プロの踊りにうっとり一日を(^ ^)
- 9月20日(土)～29日(月)日本画展・・・昨年催したのと同じ東京芸大(昨年は院生による襖絵)の卒業生による日本画展を行います。お楽しみに。
- 9月20～21日(土・日)竹灯籠の夕べ・・・今年は2日間開催します。雨天は中止です。みなさん、お天気を祈ってください。それから風が吹かないようにも・・・。20日はコカリナの演奏、21日はギターの演奏をお聞きいただけます。18日(水)9:00から12:00まで灯籠作りを行います。当日と合わせてどうぞ御協力ください。



- 市民活動フェアについて、7月25日に行われた文化分科会の報告をしました。
 - ・今後、旧村川別荘市民ガイドとしてパネル展示とビデオによる活動紹介を行っていく。
 - ビデオの撮影をボランティアで田村さんという方をお願いすることとなりました(^ ^)これからガイドの活動場面やイベントのときなどに撮影をしていくこととなります。
 - ・実行委員会が4回、分科会が1回開催される。
 - ・連絡役をどなたかお願いできますでしょうか?
 - 矢野さんが申し出てくださり、2日の会議の出席してくださいました。次回ご報告を。もうお一方、ご連絡役をお願いしたいと思っています。
- シニア世代歓迎の集いについて、9月28日に開催されるとの連絡がありました。
 - ・旧村川別荘市民ガイドの紹介をパネル展示にて行いたいと思います。→異議なし。
 - ・もと最高裁判所長官の山口さん(若松在住)による「私の地域デビュー」という講演があります。ぜひ、お聞きください!
 - ・三樹荘には田中耕太郎というやはり最高裁長官がお住まいでしたね(^ ^)

西山さん、歓迎!!

“ジョイボラ”で、われわれ旧村川別荘市民ガイドに若手のキュートなガイドさんが、8月の間加わってくれることになりました!白山中学校の西山さんです。どうぞよろしくお願いたします。



今月のつるしびな

8月のつるしびなは、涼しげな朝顔と、子どもの丈夫な成長を祈る蝉、そして季節感を演出する蛸などが飾られています。ぜひその意味なども驚見さんが作ってくださっているカードで確認してみてください。

7月の来荘者数

平成20年7月は、305人でした。
 ちなみに平成19年7月: 244人
 平成18年7月: 97人
 平成17年7月: 72人

次回は・・・

平成20年9月1日(月)午前9時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います。ぜひ、ご出席ください(^ ^) /



平成 20 年 9 月 8 日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会 文化課
歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
〒270-1166
我孫子市我孫子 1684 番地
TEL:04-7185-1583 (直通)
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

旧村川別荘だより

月例会が開催されました！

9月1日(月)に9月の月例会が開催されました。9月及び10月のシフトが確認されました。いよいよ村川シーズンの始まりです。みなさま、どうぞよろしくお願いたします。



流しそうめんが無事に流れました！



我孫子市指定文化財の旧村川別荘(我孫子市寿二丁目)において、8月23日に我孫子市教育委員会文化課の主催

で、夏休み親子竹細工教室～竹でコップと箸をつくらう！～が開催されました。

旧村川別荘の南側斜面には、村川堅太郎先生が、静謐な空間を演出しようと植えた竹林が今でも青々としています。この“竹”を使って、間伐した竹の有効利用も兼ね、子どもたちにいにしへの文化、和の文化を感じてもらおうという企画です。

およそ30人の親子が旧村川別荘の野草園の前で、ガイドさんたちのアドバイスを受けながら、竹を相手に1時間あまり奮闘。なかには切り出しナイフで竹を削り縞模様の器にしたり、器用にも竹の表面に植物や動物などのイラストを書く子も！



器ができたころ、今日のお楽しみは流しそうめんです。母屋の縁側から中庭に向かって、やはり竹を渡してそうめんを流しました。子どもたちは「早く早く！」「あ～、とられちゃった～☆」「おいしい♪」「テレ

ビでは見たことがあったけど、本当にやるのは初めて！」などと歓声をあげながらのお昼を楽しみました。



荒井さんが前日に

流しそうめんの流す竹の設置に来てくださり、当日には菊池さん、佐藤さん、瀬戸さん、染野さん、矢野さん、山口さん、山田さんと多くの方が助っ人にきてくださいました！ありがとうございました。

旧村川別荘建築まで一別荘地我孫子の誕生一

【別荘ブームの到来】

① 江戸時代の別荘

「別荘」とは普段の生活の場とは違う場所に設けた住まいのことです。大名は江戸周辺部(山手線の内外)の下屋敷を別荘的に使用していました。

② 明治時代前期の別荘

明治になると、江戸時代の別荘ゾーンに西洋風建築物を伴う別荘が大商人によって作られます。渋沢家飛鳥山別邸(飛鳥山公園)などはこの事例です。一方、陸軍軍医総監 松本順が海水浴の効用を説いたこともあり、海浜に別荘をもつ動きが上流階級に波及し、明治20年ころまでに葉山・逗子・鎌倉・鵜沼・大磯が上流階級の別荘地として開かれます。

③ 明治時代後期～大正・昭和時代初期の別荘

明治20年代の官営工場払い下げは財閥系企業を活性化します。同じころ鉄道が各地で開通し、短時間での住まいと湘南地域の往復を可能とし、大企業の経営者・幹部などが別荘を持ちます。大正期には開発業者による鉄道沿線の宅地開発(田園都市構想)や別荘開発が進行し、別荘が中産階級(大学教授・芸術家・文学者・企業社員)に波及し、昭和初期までつづきます。

【我孫子の別荘】

明治40（1907）年の島田久兵衛を皮切りに、杉村楚人冠、嘉納治五郎、大谷 登（日本郵船）、上田萬年（学者）、三谷一三（三菱合名会社）、宮尾舜二（内務官僚）などがいます。彼らは①東京から1時間余りの利便性、②美しい水を湛えた手賀沼、という理由で我孫子に来たと考えられます。大正5（1916）年、国民新聞社主催の「理想郊外住宅地」投票では、我孫子は府中・市川について3位でした。

「我孫子別荘人」は後楽農園と別荘を構えた嘉納治五郎は別格として、いずれもこの時期に経済力・社会的地位を向上させた財界人・学者です。彼らには長期滞在型の別荘ではなく、週末の余暇を過ごす短期滞在型別荘が必要なのであって、「理想的郊外住宅地」にも詠われた我孫子はまた、格好の「別荘地」となったのではないのでしょうか。

連絡など

●市民活動フェアについて

- ・企画シート（案）の内容について確認と意見を募りました。
 - ・市民活動フェアの予算を可能ならば使ったらどうでしょうか？
- 消耗品などもこれまでのものを再利用することにしており、費用はかからない予定です。
- ・連絡役を矢野さんのほかに山口さんが担ってくださるとのことです、どうぞよろしく願いいたします。

●旧村川別荘にかかわる冊子作成について

- ・10月でガイドも2周年、これにも合わせて昨年の村川夏子さんの講演と、その前段として今日お話しする別荘地我孫子の誕生について

の文章、後段に旧村川別荘として現在から未来への展望をまとめたいと考えています。

・後段では市民ガイドについて記述したいと考えており、また、今後の活動の参考にするために別紙のアンケートに御協力いただきたいと思ひます。



●竹灯籠の夕べについて

- ・竹灯籠の流れについて資料に沿って説明しました。
- ・18日、20日、21日に参加可能な方はぜひご参加願ひます！

→20日：佐藤さん、川端さん、山田さん、21日：山口さん、瀬戸さん、荒井さん、梅津さんが申し出て下さいました。ご参加可能な方はお電話などでご連絡ください（^^）

- ・もちろん！スタッフでなく、ぶらりと夜の夕涼みに来てくださってもOK！！



●池を広げました。

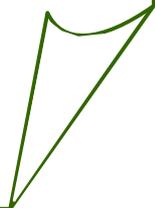
- ・湖北中の生徒さんたちが職場体験に来ましたので、彼らと一緒に下の湧水からの流れがあるところを少し掘り広げました。
- ・西山さんと鳥の博物館に行って、めだかと浮き草、ホテイアオイ、アサザなどをもらってきて、池に入れましたので、見てみてください。
- ・ちなみにめだかを放した翌日に記録的大雨が続き、だいぶ流れてしまったよう・・・（泣）。でも、湧水を直接受けている四角い枀のほうには影響がなかったはずで、広げた池のほうは、たくさん放したのに2～3匹に。未永く見守ってやってください。

8月の来荘者数

平成20年8月は、184人でした。
 ちなみに平成19年8月： 279人
 平成18年8月： 35人
 平成17年8月： 21人

次回は・・・

平成20年10月1日（水）午前9時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います。次回は、10月に開きます第7回考古展“ガラスびんにうつった明治・大正・昭和”の一早い御紹介を行います。ぜひ、ご出席ください（^^） /



旧村川別荘だより



平成 20 年 10 月 14 日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会 文化課
歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
〒270-1166
我孫子市我孫子 1684 番地
TEL:04-7185-1583 (直通)
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

月例会が開催されました！



10月1日(月)に10月の月例会が開催されました。10月及び11月のシフトが確認されました。

さわやかな秋晴れの空のもと、散策の人々も増えてきました。みなさま、どうぞよろしくお願いたします。

竹灯籠の夕べが開催されました！

我孫子市指定文化財の旧村川別荘において、9月20日、21日に我孫子市教育委員会文化課の主催で、竹灯籠の夕べが開催されました。

旧村川別荘の南側斜面に広がる竹林から切り出した竹を使って、邸内に竹灯籠をともし、夜の別荘の新たな魅力を演出しようという催しです。



そのむかし、旧村川別荘ができたころ、ここにはまだ電気も通っていませんでした。夜の涼しい風に吹かれて、別荘の住人たちは、蝋燭の柔らかな明かりをどのような思いで眺めたのでしょうか。



今回2回目となる竹灯籠の夕べ、一日目はコカリナの演奏とギターの伴奏による生の調べをBGMに灯籠の明かりをお楽しみいただきました。準備を始めて5時を過ぎるともうお客様が・・・たそがれ時の別荘に400を越える蝋燭のひかりが揺れて、彼岸花がひっそりと彩りを添えていました。竹林の中にともる灯籠は、夕闇が深まるとともにさらに明るくあたりを



照らして集う人々の心にも何かを灯してくれているようでした。この日は、総勢586人ものお客様をお迎えすることができました。

二日目はギターアンサンブルの生演奏を予定していましたが、残念ながら大雨となり中止となりました。読売新聞に掲載されたこともあって多くのお問い合わせ、遠方から来てくださった方も。

どうぞ来年、またこの村川別荘でお会いできればと思います。

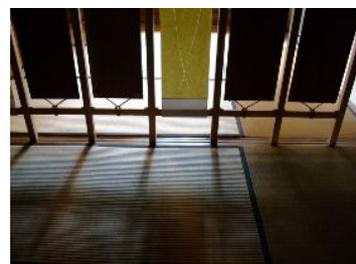


日本画展～ほころびるカタチ～好評のうちに終焉

旧村川別荘母屋にて、9月19日から29日まで、日本画展～ほころびるカタチ～が開催されました。



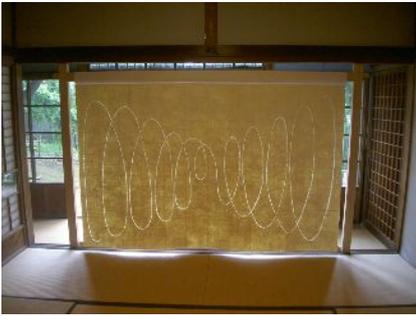
作品を展示された上田豊さんは、東京藝術大学大学院日本画科を修了された新進の日本画家で、取手を中心に活動されています。昨年母屋で襖絵展を開催された四宮義俊さんの後輩に当たり、昨年の展示会の時点ですでに「来年は是非、自分が行ないたい！」というありがたいオファーをいただいていたのです。ただし、担当はメールを中心としたやり取りをしていただけて、一体どのような作品展になるのか(上田さんは「襖絵ではありませんが…」とおっしゃっていました)当日までまったく分かりませんでした。ふたを開けてみると昨年の展示会とは違った魅力を放つ母屋に大変身



しました！時間によって色合いが変化する日本画の前にしばし佇む来訪者が数多く

見られました。竹灯籠の際にはコカリナ演奏の美しい背景にもなりました。

また、西村さんと織田さんのご協力をいただいて上田さんがたてたお茶も好評で、改めて「和のチカラ」を知る機会となりました。上田さんも「いろいろな人たちに出会えて大変楽しかった！」と語っていました。



考古展開催！

～ガラスびんにうつった明治・大正・昭和～

10月9日（木）から20日（月）まで開催されるガラスびんを題材とした考古展について、ガイドのみなさまに一足お先にご紹介です（^^）ガラスは古くは5000年前のエジプト・メソポタミアで使用されていました。弥生時代から日本にもたらされましたが、一般庶民が使用するのは明治以降です。明治のガラスびんは溶かしたガラスを型に入れ、人が吹いたものなので、ガラスの中に気泡がたくさん入っています。厚さもばらつきがあり、それがまた魅力的（に感じるようになるとかかなり重症なガラスびん患者！）です。カタチ・色味もさまざまで、浮き出したロゴマークとあわせて自社の製品に強い誇りを持っていたことがうかがえます。

ちなみに私が個人的に好きなびんは「ヘチマコロン」の緑のびんです。ヘチマコロンは竹久夢二の美人画をいち早く宣伝に使ったことで知られています。現在はプラスチック製になっていますが、当時の雰囲気を残す容器が今でも使用されています。会社に問い合わせをした際にも大変丁寧に対応してくださいました。自社の歴史やアイデンティティをととても大切にしていることが伝わってきました。みなさんはどのびんがお好みですか？



連絡など

- 市民活動フェアについて(矢野さん、山口さん)。
 - ・企画シート（案）の内容について報告されました。
 - ・文化分科会の会議報告がなされました。
 - ・キャッチコピーについてご意見、ご提案をお願いしました。
 - ・アピスタから旧村川別荘までのガイドについても企画したらどうかとの提案が分科会のほかのメンバーからなされました。
 - ・せっかくの機会なので、村川でのガイドパフォーマンスはもちろん村川ガイドで行うが、それまでのルートガイドはできればガイドクラブなど別の団体とのコラボレートについて呼びかけを試みたらどうか、それが難しいようであれば旧村川別荘市民ガイドだけで行うことも可能であろうから、そのようにしようということになりました。
- 景観シンポジウムについて(吉澤さん)。
 - ・チラシにもとに、景観シンポジウムについて照会されました。
 - ・10月17日（金）13:00～16:00に開催。
 - ・我孫子市都市計画課景観形成推進室の野村主任が事例発表をします。
 - ・我孫子の景観を育てる会が認定されます。よろしければご参加ください。申し込みが必要となりますので、申し込みは吉澤さんまで。

9月の来荘者数

平成 20 年9月は971人→978人でした。

（訂正）

ちなみに平成 19 年9月： 978人

（おしかった～(><))→ぴったりでした！！

平成 18 年9月： 126人

平成 17 年9月： 20人

次回は・・・

平成20年11月1日（土）午前9時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います。次回は、村川別荘周辺にあった我孫子別荘時代に、どのような人物がどこに設けていたのかということについてお話ししたいと思います。ぜひ、ご出席ください（^^）/

旧村川別荘だより



平成 20 年 11 月 12 日発行
 旧村川別荘市民ガイド事務局
 我孫子市教育委員会 文化課
 歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
 〒270-1166
 我孫子市我孫子 1684 番地
 TEL:04-7185-1583 (直通)
 E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

月例会が開催されました！



11月1日(土)に月例会が開催されました。11月及び12月のシフトが確認されました。

朝夕の空気もきりっとして、いよいよ秋から冬へと、季節の変わっていくことが肌で感じられるこのごろです。みなさま、どうぞご自愛くださいますように。

手賀沼文化拠点整備計画、発進！

以前にお話をしました、手賀沼文化拠点整備計画。手賀沼のほとりの文化ポイントを再整備、活用して、多くのお客様を呼び込もう、交流を深めよう、地域を活性化していこう！という計画です。これのスタートが来年度としていきます。いよいよ始まるにあたり、我孫子市の厳しい財政状況の中、単独財源だけではすべてを実施するというところに非常に無理がかかるため、国の交付金制度を活用するため、申請手続きを進めています。今回は、この申請に必要な計画として手賀沼文化拠点とそのほかの事業などを再編成して策定中の都市再生整備計画について、御紹介しました。概要を抜書きしていきます。

今回の計画では、まちづくり交付金の制度を活用し、全体事業費4割を国からの交付金で充当し事業を実施していく考えです。

この計画では、ハード整備とソフト展開と両方を行

っていく予定です。ハード整備に交付金が充当できるという方向の制度なので、計画書自体はハードい偏った感がありますが、あわせてソフト展開をしていくことにより初めてハードが生きてくるものと考えています。

事業としては、我孫子駅舎・自由通路の整備、インフォメーションセンターの整備、杉村楚人冠邸の整備

と活用、旧村川別荘の再整備と活用、志賀直哉邸跡の再整備と活用、散策路の整備などを盛り込んでいます(詳しくは計画書を御覧ください)。



今後、この計画をもとに、歩いて楽しく、訪れて面白い、そんなまちあるきができる我孫子にしていきたいと考えています。ボランティアガイドという分野もますますこれから必要度の高まる意義深いソフト事業となると思います。末永くお付き合いを・・・。

連絡など

●ガラスびん展は好評のうちに終了しました！！

もともと9日から20日までの予定でしたが、1



9日までで399名の方が来訪。26日に子ノ神の火渡りがあることを考慮し、27日まで1週間延ばし、延長のPRのダイレクトメールも

お送りしたところ、多くの皆さんがおいでくださいました。期間中の来訪者を抽出すると、実に653名の来訪でした。ガイドの皆さんにも活躍をしていただき、本当にありがとうございました。(石川さん)いやガラスびんは大変大勢のお客様がきてくれました。延長のときに私が担当した日には、子ノ神の火渡りに来てガラスびんというのを見て寄ったという方々が30名、延長のお知らせを受けて来たという方が15名、そのほか20名というような按配でした。

(山口さん)ガラスびんをたねに来訪の方々と話しに花が咲きました。

(宮脇さん)むかし使っていたとかこれは家にあったとか、楽しそうにお話してくださるお客様がい



ました。・・・などうれしいコメントもいただいています。



●紅葉キャンペーン

- ・12月上旬を紅葉キャンペーンに位置づけて、お客様のPRをしようと考えています。東葛飾地域内のインフォメーションセンターやミニコミ誌などを媒体にして、お客様を呼びこむ意図です。
- ・“小さい秋、みつけませんか” というようなコンセプトで、村川のささやかではありますが、静かな和風の佇まいの中での紅葉を楽しんでいただければという思いです。
- ・来てくださった方へのお土産として、旧村川別荘オリジナルポストカード3枚組みを先着何名様にプレゼントということをあわせて企画しています。これは、昨年度みなさんにお配りしたようなもので、矢野さんや染野さんなどが撮影して下さったものをもとにカードに仕立てる予定です。準備や配布などみなさまの御協力をお願いいたします。
- ・また、来年以降の同時期に“紅葉を歩こう！”と題して、もみじなど近辺の紅葉の見所を照会するマップを配布して散策の方々を増やしたいと考えています。そのためのしたデータを今年取りたいと思いますので、どうぞ御協力をお願いいたします。
- ・紅葉は大きく分けて3つあります。紅、黄、茶そして緑があって錦ということになるわけです。赤いのはアントシアニン、黄色いのはカロチノイドが作用して色づくという仕組みです。樹種もそれぞれあって、楽しみですね。
- ・樹木だけじゃなくてもよいのでは？同じ時期、村川のいろはもみじと同じ時期に見られる紅葉というカタチで、草紅葉もまたよいのではないのでしょうか。
- ・公有地のものは問題ないと思いますが、私有地の場合には慎重に。所有の方が困る事態になってもいけないので。さくらマップの時には、原則公有地としました。



・予算が厳しいということで、使用済みインクカートリッジの提供をお願いいたします。換金することができます。

・お客様に対してのミニプレゼントコーナーを設けようという話があります。どのような品物が提供できるか、ご意見、御協力をお願いいたします。

10月の来荘者数

平成20年10月は742人でした。

| | |
|---------------|------|
| ちなみに平成19年10月： | 333人 |
| 平成18年10月： | 223人 |
| 平成17年10月： | 45人 |

次回は・・・

平成20年12月1日(土)午前9時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います。予告をした別荘のことは1月の月例会にさせていただきます。12月の月例会では、このところあった旧村川別荘での新発見をテーマに、ガイドねたになりそうなトピックスをいくつか御紹介する予定です。その後、大掃除をしますので、可能な方は御協力ください(^^) /



- 市民活動フェアの会議がありました(矢野さん、山口さん)
- ・25日(土)13:30~15:30に実行委員会が開かれました。
- ・全部で、7分科会、72団体が参加

旧村川別荘だより



平成 20 年 12 月 12 日発行
 旧村川別荘市民ガイド事務局
 我孫子市教育委員会 文化課
 歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
 〒270-1166
 我孫子市我孫子 1684 番地
 TEL:04-7185-1583 (直通)
 E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

月例会が開催されました！

12 月 1 日（月）に月例会が開催されました。12 月及び鬼も笑う来年の 1 月のシフトが確認されました。例年では最も人が少なくなる冬季に入ります。みなさま、あたたかい格好で（^^）



旧村川別荘の新発見！！

●新館屋根飾りの発見

11 月某日、前々から気になっていた新館屋根に被さっている木の枝を伐採しようと二段梯子を架けてよじ登りました。ふと足場になっている下り棟の先端を見ると鬼瓦（の形をした銅板）の上面に、三つの長楕円形が放射状に配置されたような「補修痕」がある。昭和 30 年代の調べてみると、鬼瓦を装飾する「^{きょう}経の^{まき}巻」という装飾が取り付けられていたことが判明しました！それから、新館の床下倉庫を開いてみると今ま



で「何だろう？」と思っていた銅の棒が「経の巻」だったことが判明しました。

村川さんにお尋ねしたところ H2 年もしくは 4 年に屋根を直した機会があったそうなので、雨漏りが多発する継ぎ目をなくしたのかもしれませんが。また、屋根の装飾までこだわりをもった堅固と大澤大工の仕事を知る上でも重要なパーツだと思えます。今後、新館屋根を修復する際には是非「経の巻」付きにしたいですね。



●ほこらの発見

屋根の発見をしてから間もなく、子ノ神大黒天よりの敷地角あたりの藪を刈り払っていたところ、壊れたほこらと石段が「発掘」されました。位置が北東隅の「鬼門」にあたること、



その形態から「氏神様」が祀られていた可能性が考えられます。村川夏子さんにうかがうと、かつて別荘の番人として住んでいた方のおばあちゃんが子ノ神大黒天に来る参拝客相手の「茶屋」を営んでいたため、その方が商売に関係する神様（お稲荷さんとか大黒さんなど）を祀っていたのでは？というご指摘をいただきました。子ノ神大黒天は俳人水原秋桜子が何度も吟行に訪れるなど桜の名所として知られており、茶店が軒を連ねた時代もあったとのこと。邸内を巡る方々にうちくを語るのによい発見となりました。

連絡など

●紅葉キャンペーン

・12 月 3 日（水）より来訪された方へ、先着 100 名様に配布しました。12 日現在にてほとんどなくなりました！ご協力ありがとうございました。

●市民活動フェアについて

・文化分科会でのチラシに掲載する PR 文についてどなたか書いてくださった方はいますか？
 ・いないようなので、山口さんに一任でよろしいでしょうか？→承認されました。

そのほか意見交換がなされました

・先日の日立庭園公開では、昨年ガイド研修に来てくださった竹越先生が例として披露された鏡を使ったガイドを実践しました。来訪者のかたは、驚いたり感激したりして、鏡に仕掛けがあるのではという方もいましたよ！



- ・この間、旧村川別荘に来荘された江戸川台自治会の方々から、このあたりのガイドをお願いできないかという話が持ちかけられました。たまたま自分はガイドクラブにも属しているこのあたりのガイドもできなくもないことから、個人としてお引き受けしました。今後、もしよろしければ、旧村川別荘市民ガイドだけでも周辺ガイドへ展開していくようにするだとか、ガイドクラブと連携してそうした希望があったときには連携をとっていくなど、考えても良いのかなと思いました。
- ・ガイドクラブさんとの連携は非常に良いことだと思います。チラシをおくだとか何か連携の方法を会長さんを通して考えていきたいと思います。
- ・このあいだガイドを務めたとき、190名の団体が来ました。歩こう会で、天王台駅から我孫子駅まで一日かけて歩くというイベントだったようです。ウォーキングということで、ガイドを聞くのではなく通り過ぎて行った状況です。来荘者数には入れましたが、ガイドをした人数ではない。こういうときどのようなカウントをするのか、明確にしておいたほうがよいと思います。
- ・歩こう会などは歩くことそのものが目的なので、なかなかガイドということにはならないですね。ただ、旧村川別荘がポイントとして認知が進んできたという現われでもありますし、それはカウントしてよいと考えます。
- ・先日、市民活動入門講座でガイドしましたが、非常に熱心に聞いてくださいました。
- ・聞いた方々からも非常によかったと好評でした。お疲れ様でした。
- ・毎月決まってお昼をリビングで食べるグループがあります。どうかと思うのですが、市には了解を取ってありますと言われるとそれ以上のことは言いかねるのですが。お昼ではなくても講座で既得権として使用を主張される団体もあり、見学の方のほうで遠慮してしまうことがあります。
- ・お貸しするときには、新館は奥の部屋ということでお貸ししていますし、昼食についてリビングのほうでよいというお墨付きを与えているようなことはないと思うのですが、利用と見学との兼ね合いの問題が来訪者の増加とともに増えていることは事



実で、これを解決していくために文化課でも検討しています。都市計画上の問題や、建物構造上の課題などを整理して、適切な道を見つけていくつもりです。

- ・実を言うと、市民文化講座などで使わせてもらう文化団体側としても、活動に使う場所としては使いくらいのところでもあります。駐車場もないし、アビスタとか公民館とかの施設とはもちろん違うわけですから・・・。
- ・そうですね、お互いが不幸になってしまっただけは意味がないので、より良い方向を探していきたいと思います。

ちょっとひとこと

ソウルに行ったときのこと。景福宮でのガイドに村川のなぞの一つの答えを見出したように思いましたので、御紹介いたします(^^)



景福宮は、李氏朝鮮時代の王宮。この李王朝の建築様式の特徴の一つとして、ガイドさんは、四隅が盛り上がり形成し、反りが通常よりも強くその下部には色鮮やかな丹青の施された扇垂木が並ぶ屋根の形状を挙げました。これは、瑞鳥である鳳凰が羽を広げた様子を象って作られたものであり、吉兆を示しているとのこと。また、これは韓国独特のものであるということでした。

旧村川別荘の屋根の形は必ずしもここまで反りが強くないし、扇垂木も王宮レベルのものに比べれば当然のことながら相当あっさりしている簡素なものですが、“朝鮮風”と施主である村川堅固氏が主張するものとなっているのは、このような背景ではないかと推察されます。ひとつの見方としてガイドの参考に(^^)

11月の来荘者数

平成20年11月は712人でした。

| | |
|---------------|------|
| ちなみに平成19年11月： | 521人 |
| 平成18年11月： | 437人 |
| 平成17年11月： | 163人 |

次回は・・・

平成21年1月7日(水)午前9時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います。

一年はあっという間でした。本当にお世話になりました。良いお年をお迎えください。



旧村川別荘だより



平成21年1月20日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会 文化課
史文化財担当：岡村、辻、工藤
〒270-1166
我孫子市我孫子1684番地
TEL:04-7185-1583(直通)
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

あけましておめでとうございます



旧村川別荘市民ガイドができて、3度目のお正月を迎えました。旧暦1月を睦月(むつき)と呼び、現在では新暦1月の別名として使いますね。由来には諸説あるそうですが、

最有力は、親族集って宴をする「睦び月(むつびつき)」の意であるとするものだそうです。人と人の結びつきを大切にしていきたい、そんな思いで一年を始めたいと思います。

1月の月例会が開催されました

1月と2月のシフトの確認を行いました。いくつかの変更がありました。皆様のご協力でうまく調整されました(^_^)シフト表をご確認ください。

旧村川別荘周辺の文人、著名人の足跡その1

明治から大正、昭和にかけて我孫子エリアの手賀沼沿いに別荘や住まいを構えたと思われる、数々の著名人の居所に迫ります。

現在わかっている範囲では、島久別荘跡が我孫子で最も古い別荘です。その島久を皮切りに手賀沼沿いではどのような別荘風景が生み出されていったのでしょうか？当時の土地台帳により土地の所有状況を調査した結果から、興味深いことがわかってきました。楚人冠の手賀沼保存のための陳情書へ連盟で署名された人々のほとんどがここに挙げられます。高野山から一番西の船戸までの文人、著名人のうち、今回は次の方々を取り上げました。

①近衛文麿(宝津窪)・・・いわずと知れた内閣総理大臣。ウィキペディアにも我孫子に別荘を所有していたことが掲載されていることを今回発見！びっくり。

②大谷 登(大久保)・・・日本郵船の第7代社長。生え抜きの実業家。今の日立総合経営研修所の全部がこの別荘であった。

③沼田才治(大久保)・・・どんな人物か今のところ不明。しかし大谷別荘の東側にぴったり接している大規模地を同時期に持っていることから、大谷と関連性があるのではと推測。陳情書への署名も大谷の隣。



④島田久兵衛(子ノ神)・・・東京の薬種問屋。楚人冠の我孫子に来るにいたるきっかけとなった人物だが、意外にも足掛け3年しか我孫子に土地を所有していなかった。

⑤三谷一二(子ノ神)・・・三菱鉱業の社長、福山市長などを務めた。つい近年までご子孫が土地を相続されて持っていた。

⑥内山作次郎(子ノ神)(瀧井孝作：仮寓)・・・東京の呉服商。この人が瀧井を仮寓させた。

⑦小林力弥(子ノ神)・・・旅行会社の重役。

⑧渡辺龍聖(子ノ神)・・・教育者。東京高等師範の教師を経て、小樽高商や名古屋高商などの創立時の校長として赴任。官立高等商業学校の設立に力量を買われ尽力した。

⑨志賀直哉(雁明)・・・かなり長期に土地を所有。引越し魔の志賀が我孫子には比較的長期に住んでいたことになんだか少しうれしくなる。



詳しい場所などは月例会資料にてご覧ください。
 続きは、次回に！なお、資料は地図のコピーなどが含まれているので、ご自分用の資料としてのみの使用となります。もし、ご不要の場合には文化課までご返却ください！m(.)m

連絡など (→表記は文化課です。)



●市民活動フェアについて(矢野さん)。
 ・ポスター及びちらしを配布、地元で宣伝を！

・使用済みインクカートリッジのご提供を！カートリッジを換金し、フェアの予算にできます。2月14日に集めるので、月例会のときにお持ちください。

●ガイドの県の連絡会出席(瀬戸さん、矢野さん)

・県より観光立県千葉の推進に関する条例や計画などについて説明がありました。

・討議は、ボランティアガイドの躍進の一助となるように、県全体のガイド団体を束ねる連絡協議会を作るといのはいかがかということでした。

・出席者からは、メリットとして県全体でのPRや広報などを効果的に行える、情報交換や研修の充実が図れる、団体同士の交流のためにあったほうがよいなどの賛成意見と、情報交換や交流は現状でもできている、千葉県全体というが各々の状況も活動内容も異なる中でひとつにまとまっていくということの困難さが大いにある、費用や事務、人手などを負担しなければならなくなるデメリットを踏まえるとメリットのほうが少ないと考えるなどの反対意見とが出されました。

・最終的には、『個々の団体の負担を軽減することができれば、組織することはよいと考える、ただし、県全体よりもエリア別の連絡協議会の存在が重要、その上に県全体の組織があるということが望ましい』という形で意見がまとまりました。

・県と県観光協会のほうで、他のエリアでの意見も踏まえ、今後、事務局機能をどうするか、負担金などの取り扱いはどうするかなど検討をしていきたいとのことでした。

●部屋使用について。

・先日、シフトの引継ぎのときに聞いたことですが、新館利用の団体で部屋に入りきらない状況が以前からあり奥の部屋の使用を促したところ、団体からは使ってよいことになっていると主張され、

ガイドの部屋となっているところにいることができなかつたようです。

・市民団体に部屋を貸しているという状況は悪くないですよ。文化財としての見学もあり、文化・芸術団体の部屋利用もありということは、継続的な魅力向上になっています。だから、奥の部屋からはみ出している利用があるときにも、寛容にというか、いいですよと、でも見学者が来たときには見学させてくださいと予め伝えてあります。

→予約の段階では奥の部屋が貸し出しの部屋ですとの説明をしています。このことはそのガイドさんから聞いていまして、その団体に奥の部屋の利用をと申し入れをしています。

・以前からの団体は、できればそうすればよいくらいにしか思っていないふしも見受けられるので、予約の時には手前の部屋は使えませんよということをお願い添えてもらおうと良いかと。

・この間も言いましたが、お弁当を食べることになっているというグループがありました。

→散策の休憩や飲食をされるということは現在のところは禁止していません。汚さずにごみは持ち帰ってくださいということは伝えているのと、部屋を使う場合には予約は必ず必要としています。

・私のシフトのときには、利用のルールを説明し、奥の部屋に収まってもらいました。

・あんまり厳格にしなくても、私のときにはこの部屋と一緒にいたという感じでしたよ。うまく共存してやっていければ。

→今回については、通常の利用ではなくて文化課でとりまとめている市民文化講座のひとつで、調整をしており責任のあるのは文化課です。調整不足であり、みなさんにご迷惑をおかけして申し訳ありません。この場合に限らず、奥の部屋利用に問題がありましたら、文化課までご連絡ください。対応いたします。

12月の来荘者数

平成20年12月は220人でした。(絵葉書効果有り?)
 ちなみに平成19年12月：158人
 平成18年12月：253人
 平成17年12月：26人

次回は・・・

平成21年2月1日(日)午前9時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います。



旧村川別荘だより



平成 21 年 2 月 16 日発行
 旧村川別荘市民ガイド事務局
 我孫子市教育委員会 文化課
 歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
 〒270-1166
 我孫子市我孫子 1684 番地
 TEL:04-7185-1583 (直通)
 E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

2月の月例会が開催されました

2月と3月のシフトの確認を行いました。いくつかの変更がありました。

シフト表をご確認ください。

旧村川別荘周辺の文人、著名人の足跡 その2

前回に引き続き、その2ということで、(前回に先走って志賀まで掲載してしまいましたか)今回の月例会では志賀直哉から武者小路実篤まで以下の人物を取り上げました。



①志賀直哉(雁明)・・・父親との断絶、失意のうちに創作意欲もわかない状況下で、柳の勧めにより我孫子へ転居。水辺の環境に癒されたか、父親とも和解へ、そして『和解』を書き上げたのです。

②嘉納治五郎(南作)・・・講道館柔道の始祖。現在わかっている限りでは我孫子で2番目の別荘を設けた。オリンピックで手賀沼をボート会場にしようというアイディアは実現しなかった。もし、そうだったら今頃我孫子は・・・?



③柳 宗悦(南作)・・・民藝の発想者。嘉納治五郎の甥。嘉納に進められて我孫子に新婚の居を構える。“民藝”の着想を得たのは我孫子と言われている。

④バーナード・リーチ(南作)・・・柳邸の一角に窯を設け、平日は我孫子

で作陶に励み土日には東京の自宅へ帰るとい生活をしてきた。リーチの筆跡で焼き物に書かれた「我孫子」という文字を見ると、その存在が本当身近に感じられる。



⑤宮尾舜治(柏木)・・・大蔵官僚、台湾総督府にも勤務、愛知県知事、北海道庁長官なども務めた。関東大震災では後藤新平総裁の右腕として活躍。我孫子での別荘建物の存在は不詳。

⑥上田萬年(柏木)・・・国語学者・言語学者。東京帝国大学教授。我孫子での建物の存在はなかったようで、別荘を建てるまでに至らず土地のみを所有したらしい。我孫子の土地のことが、娘である円地文子の短編作品に書かれている。

⑦中 勘助(柏木)・・・夏目漱石門下の作家、詩人。手賀沼べりに寄寓。『沼のほとり』などを書いた。



⑧嘉納後楽農園(柏

木)・・・嘉納治五郎が築いた農園。もとは学園を設置する目論見から土地を取得していったのではないとも考えられている。ここでは多くの作物が作られ、今でこそ珍しい方法ではないが、作物にブランド的付加価値をつけて「嘉納後楽農園のかぼちゃ」などラベルをつけるなど近代的農園経営を図った。当時、土地の境などに植えた桜の木が、いまでも白山の住宅地の道路上等に残っている。

◎武者小路実篤（船戸）・・・

白樺派の小説家。我孫子での住まいは、志賀直哉が所有した土地を借りて住んでいた。「新しき村」の計画を我孫子で練り、発会式をここで行った。



このように、我孫子の別荘地としての歴史は、そう長いものではありませんでしたが、そこに居を構えた文人、実業家たちは錚々たるメンバーであったことは疑いありません。明治末から大正にかけて、我孫子の西側が先発地として文人の移住が進み、さらに昭和初期以降にかけて東方向にその移住が移動している傾向が読み取れます。我孫子の知名度の浸透や我孫子ゴルフ倶楽部の創設などが影響しているものと見られます。今回は主だった方々を紹介していますが、現在、調査を続行中で、さらに土地を所有しておらず、住んだだけの人々も含めていくとかなり広がっていきます。こうした部分も資料をまとめ整理して、またみなさんに御紹介していきたいと思っています。なお、**資料は地図のコピーなどが含まれているので、ご自分用の資料としてのみの使用となります。もし、ご不要の場合には文化課までご返却ください！**

連絡など (→表記は文化課です。)

- 市民活動フェアの役割分担について
- ・別添の資料に沿って当日することについて説明。
- ・表に沿って、役割分担を決めました。
- ・これ以外でもブースには2名程いたほうがやりよいので、可能な方は文化課までご連絡ください。
- ・役割は担えないというかたもぜひ、アビスタに見に来てください。
- ・27日が準備だという指摘がありました。
- 27日(金) 15:00 から 17:00 が事前準備となります。青木さん、山田さんをお願いいたします。
- ・活動ビデオについては、まだ完成しておらずみなさんにお見せすることができません。完成しましたら、教育委員会と市民活動ステーションでご連絡に応じて観ることができる時間を設定いたします。また、1枚貸し出し用を作って村川におい

ておきますので、事前に御覧ください。詳細は追って連絡を差し上げます。

- ・ちらしは当日配るのでは効果が薄い。当日来る人はもう目当てが決まっていたり、自分の所属体の役割があったりして他のブースを見たりましてやツアーに参加したりすることは殆ど難しい。
- ・ちらしは事前に印刷していろいろなところに置くほうがよい。来週中に印刷して手分けして近隣センターや公民館においてもらうようにしよう。
- 2月2日に吉澤さんと山口さんと工藤とでちらしを作成、印刷することとします。
- 2月3日に集まれる人(大井さん、梅津さん、近藤さん、染野さん、青木さん、山田さん、菊池さん、瀬戸さん)で、散策ルートをマーキングし、配布できる形にまとめて、それぞれ担当の人が配ることとなりました。(配るところ別紙16箇所)
- ・絵葉書づくりは別途日にちを設定して、封詰めなどを行うこととします。

●松戸シティガイドさんからの申し入れについて (矢野さん)

- ・松戸シティガイドさんから、正式ではないですが、村川の見学とガイド、ガイド同士の交流を持ちたいとの相談がありました。
- ・下見に2月28日に3名の方が来ます。
- ・3月4日(水)に全体20名あまりの方々が来たいということです。
- ・お受けしていくことでよろしいでしょうか？
- 異議なしでした。
- 正式に連絡がありました！3月4日(水)午前9時半くらいから午後2時くらいまでになると思います。昼食と交流会を兼ねたいと思っています。参加可能な方、文化課までご連絡ください。(昼食代1200円程度目安です)

1月の来荘者数

平成21年1月は 244人でした。
 ちなみに平成20年1月： 185人
 平成19年1月： 329人
 平成18年1月： 57人

次回は・・・

平成21年3月2日(月) 午前9時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います。
 今回は2日です。ご注意ください(^^)

旧村川別荘だより



平成 21 年 3 月 9 日発行
旧村川別荘市民ガイド事務局
我孫子市教育委員会 文化課
歴史文化財担当：岡村、辻、工藤
〒270-1166
我孫子市我孫子 1684 番地
TEL:04-7185-1583 (直通)
E-mail:abk_bunka@city.abiko.chiba.jp

3月の月例会が開催されました

3月と4月のシフトの確認を行いました。いくつかの変更がありました。

シフト表をご確認ください。

杉村楚人冠展「楚人冠と世界一周旅行」解説



1月31日から2月16日まで行われた楚人冠展の解説をさせていただきました。

今回の楚人冠展

のテーマは「楚人冠と世界一周旅行」。明海大学小林健教授とゼミ生のご協力を得て、より深い展示を行うことができました。

世界一周会は明治41年元日、朝日新聞紙上で開催が発表され、参加者を募りました。発案者は楚人冠でした。旅行の総日数は96日、費用は2340円（現在の金額に換算するとおおよそ1000万円）。行程はアメリカ→イギリス→フランス→イタリア→ドイツ→ロシアと回りました。参加人数は54人（内3人が女性、内1人が単身で参加）引率者が2人（楚人冠と土屋元作、共に朝日新聞社記者）の計56人でした。

《世界一周会で特筆すべき点》

- 1) 朝日新聞によって参加者を呼びかけたこと→今までに不特定多数の一般の人々が集まり、海外旅行へ行ったことはなかった。
- 2) 民間による外交を謳ったこと→今までは政府機関レベルで行われており、お互いの国の一般的な人々との交流は少なかったため、認識も低かった。
- 3) 朝日新聞社の宣伝的な意味合いもあった。

《世界一周会でのできごと》

- *ルーズベルト大統領との謁見（米）
 - *サンフランシスコ、シカゴでの歓迎（米）
 - *ニューヨークで最先端の株式市場の見学、給湯設備の充実など最先端技術を目の当たりに。（米）
 - *ノースクリフ卿（当時、イギリスの新聞王と言われていた）の園遊会（英）
 - *英国議会の見学と歓迎（英）
- その他にフランス（パリ）、イタリア（ジェノバ、ローマ、ポンペイ、ヴェニス）、ドイツ、ロシアを訪問しているが、アメリカ、イギリスと異なる点は公的な要素が薄い点である。

《今回の主な展示資料》

- 1) 世界一周会のピンバッジ→杉村家資料目録作成後に発見されたもの。
- 2) 世界一周会のスクラップ→楚人冠が書いた世界一周会の記事のスクラップ。これをもとに『世界一周画報』が書かれており、文章の大半は楚人冠の記事を引用したものと分かる。
- 3) アルバム→明治期に楚人冠が受け取った様々な招待状などがスクラップされている。中に今回の世界一周会関連招待状、参加証、パスポート等が綴じられている。
- 4) 野村美智子著『世界一周日記』→参加した女性3人の中、唯一単身で参加した野村美智子が書いた私家本。序文は楚人冠と元作が書いている。国会図書館に所蔵されていない貴重書。
- 5) 欧米の記事のスクラップ→世界一周会の取材記事。主にイギリスの新聞がスクラップ。世界一周会関連の海外新聞の記事が揃っている珍しい資料。



今回の展示では、ヨーロッパの変わらない風景を見て感心しました。景観の移り変わりが激しい今日、旧村川別荘の敷地内に入ると、当時の自然と建物が残っている…この雰囲気維持はとても難しいことなのだと思っていました。また、ハードスケジュールの中、時間を惜しむように視察や観光に出かける会員の様子を窺うことができました。この体力、精神力を見習ってきたいと思う今日この頃です。

報告・連絡など

- 市民活動フェアについての実施報告
- ・ 参加人数は次の通りです。

| | ビデオ上映 (2回合計) | ミニ ツアー | 合計 |
|--------------|-----------------|-----------|------|
| 2月28日 (土) | 40名 | 13名 | 53名 |
| 3月1日(日) | 48名 | 41名 | 89名 |
| 両日の合計 | 88名 | 54名 | 142名 |

村川を知らない方に対して、かなりのPRができたのではないかと考えています。



ご協力、本当にありがとうございました！

・スタッフの方々の協力なくしては行うことができなかつたものと思います。矢野さんが

すばらしかったので、負けまいと上映会の司会を頑張りました(笑)！呼び込みの効果も大きかったかと思えます。様子を見てみると、上映会参加者はすでにミニツアー参加の意思も固めてらっしゃる方がほとんどであったように思います。

・事前にちらしをたくさん場所に配っておいたことが功を奏したと思います。市民プラザは30枚ではあっという間になくなっていました。場所によって枚数を考えたほうがよいと思います。置き方ひとつでも違い、マップのほうを表側にしたほうが、取っていただく方は

多かつたようです。あと当日、集合場所などがわかりにくかつたように思います。

・二日目の日は、総合受



付の後ろにツアーのPRと集合についての紙を山口さんが作って貼りました。これがとてもよかつた。



- ・ 絵葉書は先着100名としたため、市民活動フェアに限らず配られた結果、ミニツアー参加者にまでいきわたらないという状況が生じました。自分としては、てっきりミニツアーの方という意識でやっていたので、来年度以降この点について統一を図り、ミニツアー参加者にミニプレゼント！としたらどうかと思います。
- ・ ガイドクラブさんとの連携もよかつた！栗田会長はじめ、御協力いただけたことに感謝です！

● ひなのまつりについて

・ 現在開催中のひなのまつりですが、大盛況！現時点では(皆さんの書いてくださっている日誌では、もうすでにカウント不可能となっております)少なく見積もっても**1200名!!**程度は来荘されています。9日までということで、どうぞご協力をお願いいたします。

● 3月4日松戸シティガイドとの交流会について参加者の方で打ち合わせをし、次のようにまとめりました。

- ①9:30 我孫子駅集合→周辺の史跡を散策しながら村川へ②10:45 旧村川別荘にて当日担当の梅津さんとサポートで近藤さんがガイドを行う③周辺の史跡を散策しながら鈴木屋本店へ④12:30 鈴木屋本店にて昼食⑤12:50 昼食をとりながら交流会(挨拶、お互いのガイド状況の紹介(瀬戸さん、山口さん、西村さん、織田さんからご紹介)、意見交換、懇談など)⑥14:00 終了、解散)



1月の来荘者数

平成21年2月は **1844人** (推定)でした。
 ちなみに平成20年2月: 178人
 平成19年2月: 618人
 平成18年2月: 78人

次回は・・・

平成21年4月1日(水) 午前9時半から旧村川別荘新館にて月例会を行います。